

2025年3月期 | 第111期
期末決算説明資料

2025年5月
フタバ産業株式会社

FUTABA



目次

1. 2025年3月期 決算概況

2. 2026年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

決算要約

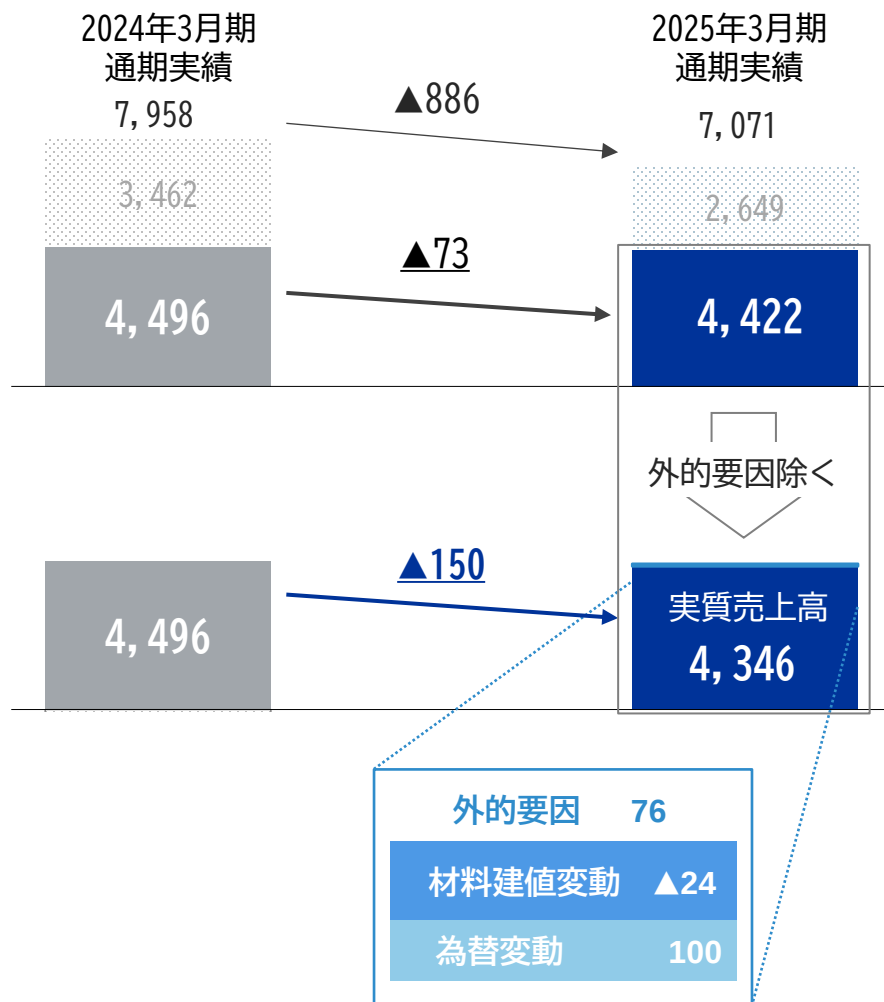
単位：億円

	2025年3月期 通期実績	2024年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高	7,071	7,958	▲886	▲11.1%
〔支給品込み〕				
〔支給品除く〕	4,422	4,496	▲73	▲1.6%
営業利益	151 (2.1%) (3.4%)	192 (2.4%) (4.3%)	▲40	▲21.0%
経常利益	132 (1.9%) (3.0%)	184 (2.3%) (4.1%)	▲52	▲28.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	62 (0.9%) (1.4%)	128 (1.6%) (2.9%)	▲66	▲51.6%
() 内は売上高比率を表示 上段：支給品込み 下段：支給品除く				
為替レート (1ドル)	152.6 円	144.6 円	+8.0 円	

決算要約 売上高の分解：支給品/材料建値/為替変動影響

◆ 売上高

■ 売上高(支給品除く) 単位：億円
 □ 支給品金額



- ・ 売上高は支給品込みで ▲886億円の減収
- ・ 支給品除く売上高は、▲73億円の減収
- ・ 材料建値変動、為替変動影響を除くと
実質売上高は、▲150億円<▲3.3%>の減収

- ・ **支給品とは**
得意先から有償支給される触媒等の部品
支給品を含む製品の売価には、支給品額が含まれており、利益影響はない
- ・ **材料建値変動とは**
市況の変動により、材料の仕入れ単価と
売価の内材料費分が同額変動すること。
売上と原価が同額変動するので、利益影響はない
- ・ **為替変動影響とは**
海外子会社の財務数値を円換算する際、
前期と当期の為替レートの差分 売上等が変動すること

セグメント別売上高と営業利益 支給品除く

単位：億円

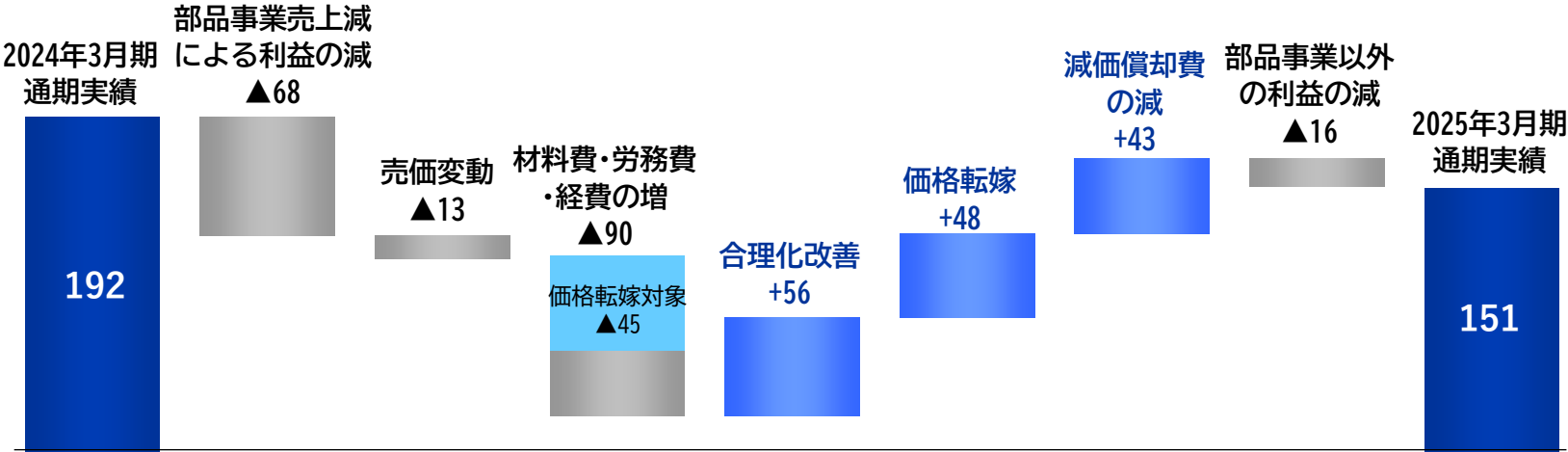
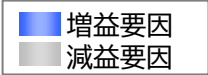
		2025年3月期 通期実績	2024年3月期 通期実績	増減	増減率
日 本	売上高 [支給品除く]	2,167	2,255	▲88	▲3.9%
	営業利益	59 (2.7%)	98 (4.3%)	▲38	▲39.7%
北 米	売上高 [支給品除く]	1,240	1,111	+128	+11.6%
	営業利益	27 (2.2%)	34 (3.1%)	▲7	▲21.9%
欧 州	売上高 [支給品除く]	384	412	▲27	▲6.7%
	営業利益	24 (6.4%)	20 (5.0%)	+3	+18.8%
中 国	売上高 [支給品除く]	561	641	▲79	▲12.4%
	営業利益	22 (4.0%)	22 (3.5%)	+0	+2.3%
ア ジ ア	売上高 [支給品除く]	184	166	+18	+10.9%
	営業利益	18 (10.2%)	14 (8.6%)	+4	+31.1%
連結調整	売上高 [支給品除く]	▲116	▲91	▲25	
	営業利益	▲0	1	▲2	
合 計	売上高 [支給品除く]	4,422	4,496	▲73	▲1.6%
	営業利益	151 (3.4%)	192 (4.3%)	▲40	▲21.0%

() 内は売上高比率を表示

営業利益の増減分析 前期比

営業利益の増減 **▲40億円** （ 192億円 → 151億円 ）

単位：億円



日本	98	▲32	▲4	▲66	+13	+36	+27	▲13	59	▲38
北米	34	▲14	－	▲27	+19	+6	+7	+2	27	▲7
欧州	20	▲6	▲2	▲1	+4	+6	+1	+2	24	+3
中国	22	▲18	▲7	+8	+18	－	+9	▲10	22	+0
アジア	14	+2	－	▲5	+2	－	▲0	+6	18	+4
消去	1						▲0	▲2	▲0	▲2
									192	
									151	▲40

営業利益以下の内訳

単位：億円

	2025年3月期 通期実績	2024年3月期 通期実績	増減	備考
営業利益	151.7	192.1	▲ 40.3	
営業外収益	27.4	33.7	▲ 6.3	
営業外費用	46.4	41.0	+5.3	
経常利益	132.8	184.8	▲ 52.0	
特別利益	20.0	-	+20.0	
特別損失	52.0	-	+52.0	
事業再編損	26.1	-	+26.1	中国天津地区の生産拠点集約
減損損失	25.8	-	+25.8	中国広州拠点の固定資産の減損
税金等調整前純利益	100.7	184.8	▲ 84.1	
法人税等	37.3	43.0	▲ 5.6	
法人税等調整額	5.6	7.6	▲ 1.9	
当期純利益	57.7	134.2	▲ 76.5	
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 4.3	5.9	▲ 10.2	
親会社株主に帰属する 当期純利益	62.0	128.3	▲ 66.2	

目次

1. 2025年3月期 決算概況

2. 2026年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

通期業績予想

単位：億円

	2026年3月期 業績予想	2025年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高	6,800	7,071	▲271	▲3.8%
[支給品込み]				
[支給品除く]	4,200	4,422	▲222	▲5.0%
営業利益	160 (2.4%) (3.8%)	151 (2.1%) (3.4%)	+8	+5.4%
経常利益	160 (2.4%) (3.8%)	132 (1.9%) (3.0%)	+27	+20.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	120 (1.8%) (2.9%)	62 (0.9%) (1.4%)	+57	+93.3%
() 内は売上高比率を表示 上段：支給品込み 下段：支給品除く				
為替レート (1ドル)	145 円	152 円		

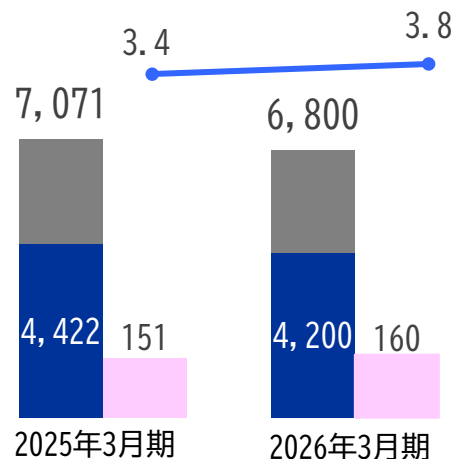
セグメント別売上高と営業利益

2025年3月期対比

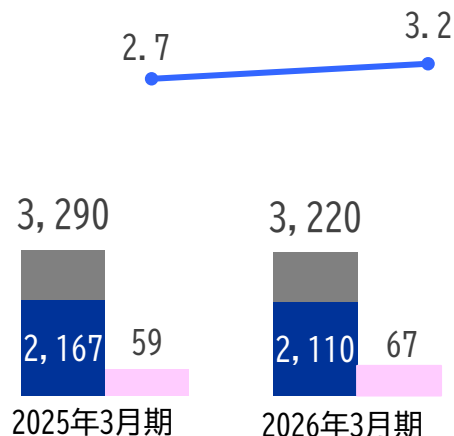
単位：億円

支給品込み売上高
 支給品除く売上高
 営業利益
 売上高(支給品除く)に対する営業利益率

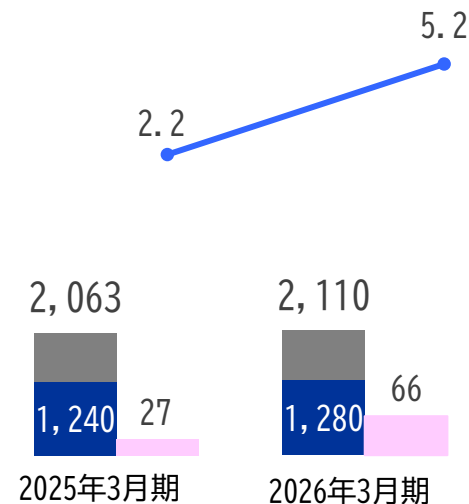
合計



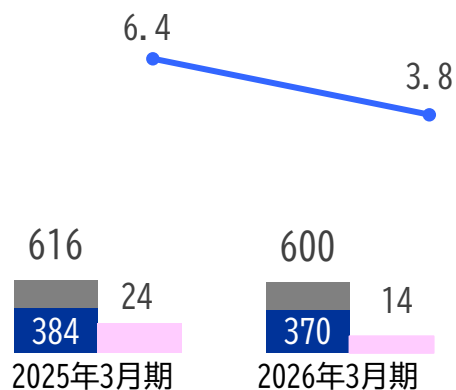
日本



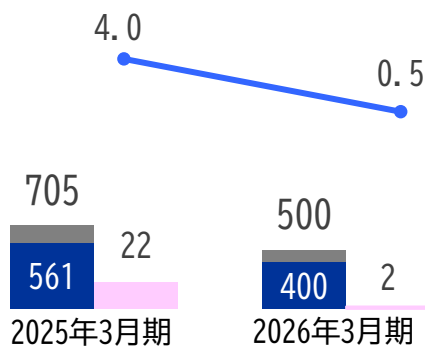
北米



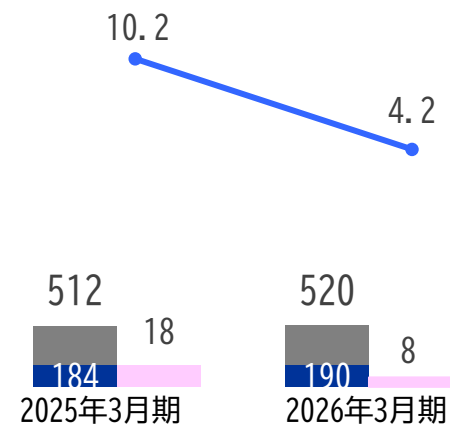
欧州



中国



アジア

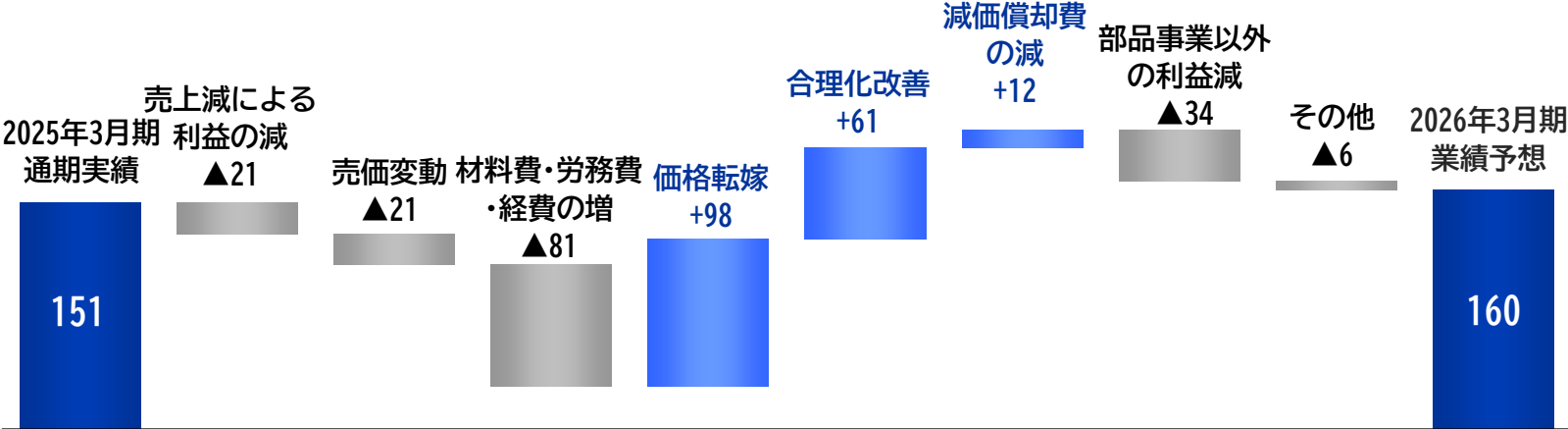


営業利益の増減分析 業績予想 2025年3月期対比

営業利益の増減 +8億円 （ 151億円 → 160億円 ）

単位：億円

増益要因
減益要因



増減

日本	59	+11	▲8	▲60	+73	+16	▲3	▲19	▲1	67	+8
北米	27	+6	▲3	▲15	+23	+22	+5	▲2	+3	66	+39
欧州	24	▲4	▲1	▲11	+2	+6	+0	+2	▲6	14	▲10
中国	22	▲33	▲8	+7	-	+15	+11	▲13	▲0	2	▲20
アジア	18	▲2	▲0	▲2	-	+2	▲1	▲2	▲5	8	▲10
消去	▲0	-	-	-	-	-	-	-	+3	3	+3

151

160 +8

目次

1. 2025年3月期 決算概況

2. 2026年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

得意先別売上高

() 内は売上高比率 単位：億円

支給品込み	2025年3月期 通期実績		2024年3月期 通期実績		増減	増減率
※1トヨタグループ	5,820	(82.3%)	6,484	(81.5%)	▲663	▲10.2%
スズキ	556	(7.9%)	682	(8.6%)	▲125	▲18.5%
三菱自動車	195	(2.8%)	223	(2.8%)	▲28	▲12.6%
※2日産グループ	97	(1.4%)	95	(1.2%)	+1	+1.8%
本田技研	90	(1.3%)	96	(1.2%)	▲5	▲5.8%
その他	310	(4.4%)	376	(4.7%)	▲65	▲17.4%
合計	7,071	(100.0%)	7,958	(100.0%)	▲886	▲11.1%

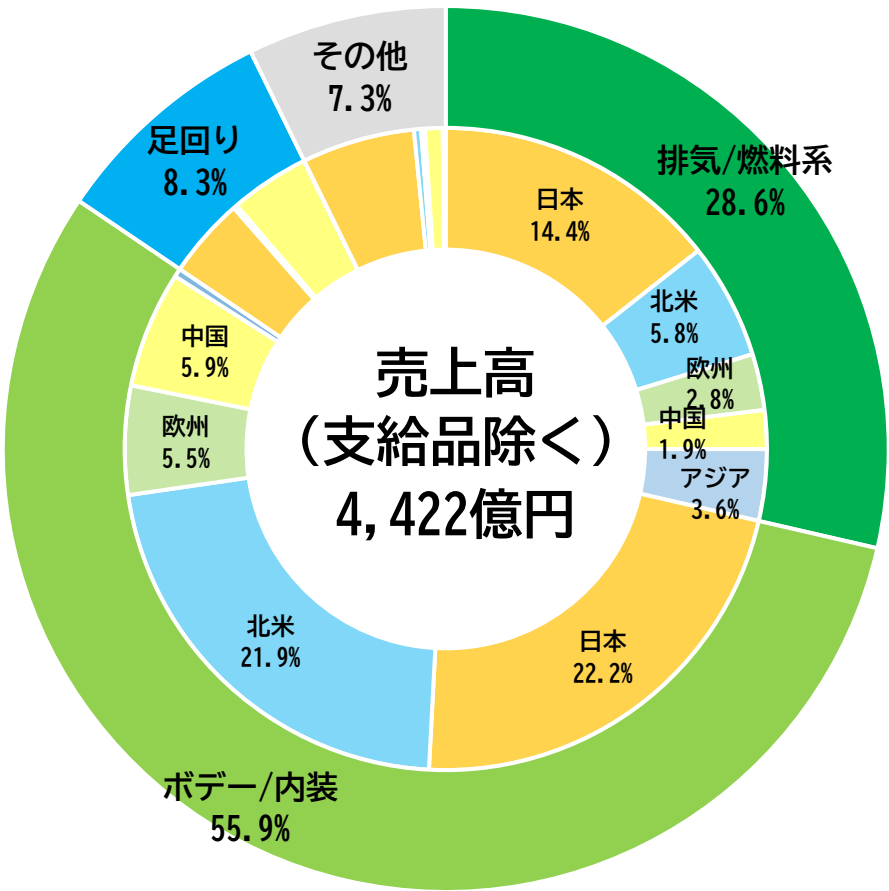
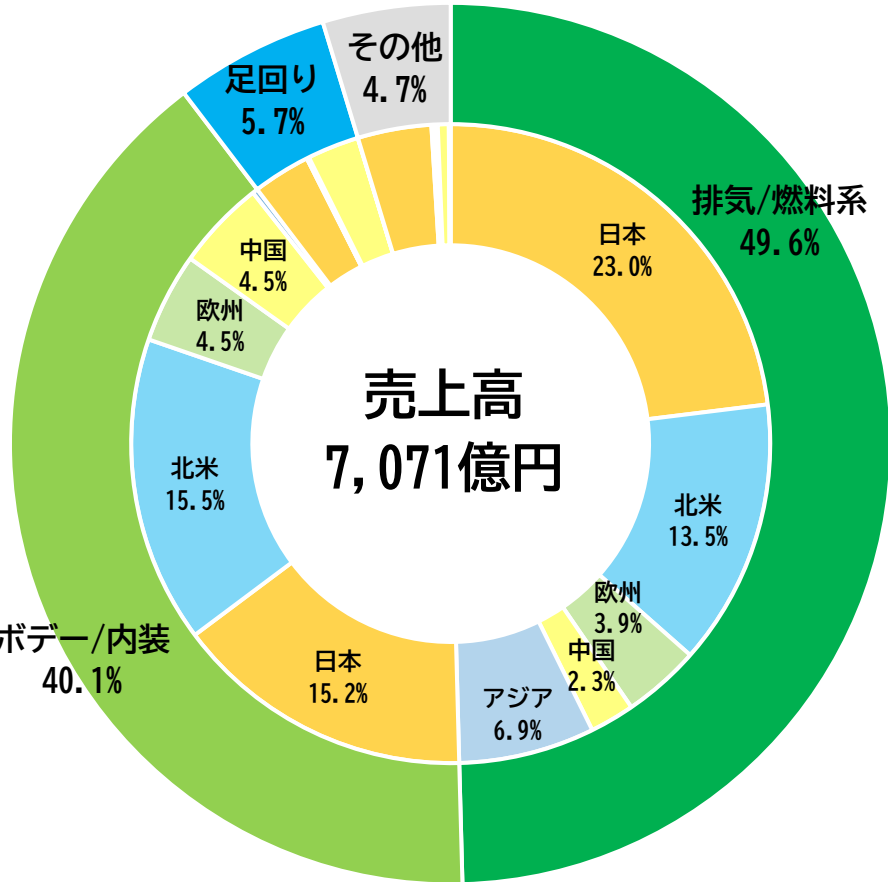
支給品除く

※1トヨタグループ	3,756	(84.9%)	3,763	(83.7%)	▲6	▲0.2%
スズキ	214	(4.9%)	228	(5.1%)	▲13	▲6.0%
三菱自動車	112	(2.5%)	104	(2.3%)	+7	+7.2%
※2日産グループ	72	(1.6%)	71	(1.6%)	+0	+0.5%
本田技研	69	(1.6%)	69	(1.6%)	▲0	▲0.8%
その他	197	(4.5%)	258	(5.7%)	▲60	▲23.5%
合計	4,422	(100.0%)	4,496	(100.0%)	▲73	▲1.6%

※1 トヨタグループには、ダイハツ、日野自動車等を含む

※2 日産グループには、日産車体を含む

2025年3月期 製品別売上構成比率



支給品込みと支給品除きの売上構成比率を比較すると

排気系/燃料系部品	49.6%→28.6% (▲21.0pt)
ボデー内/外装部品	40.1%→55.9% (+15.8pt)

東証プライム市場
名証プレミア市場

証券コード 7241

フタバ産業株式会社 中期経営計画 2025—2027



2025年5月14日



アジェンダ

I 前中期経営計画(2022-2024)の振り返り

II 新中期経営計画(2025-2027)

①事業環境の現状認識

②フタバの目指す姿

③事業戦略

④財務資本戦略

I. 前中期経営計画(2022-2024)の振り返り

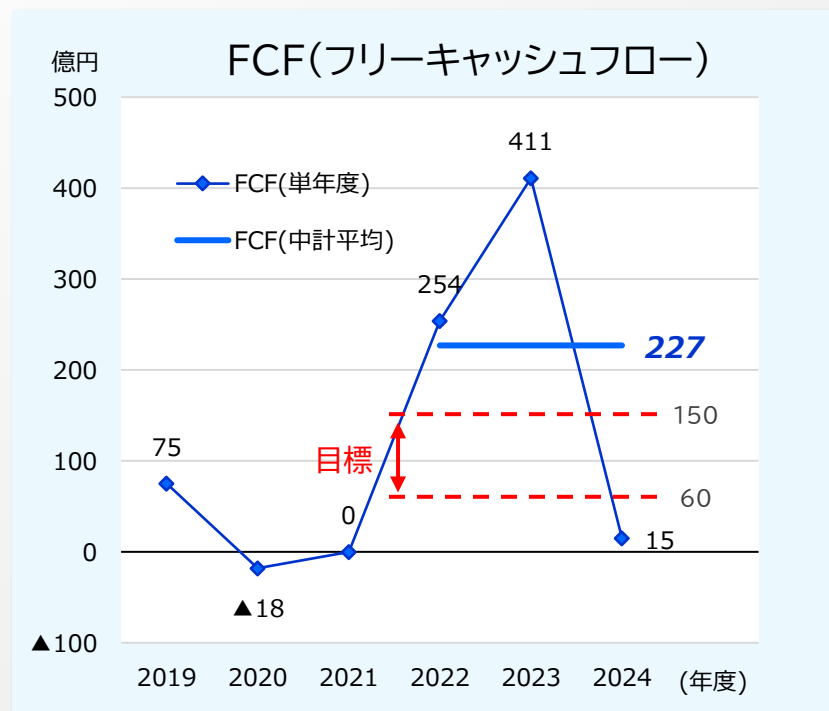
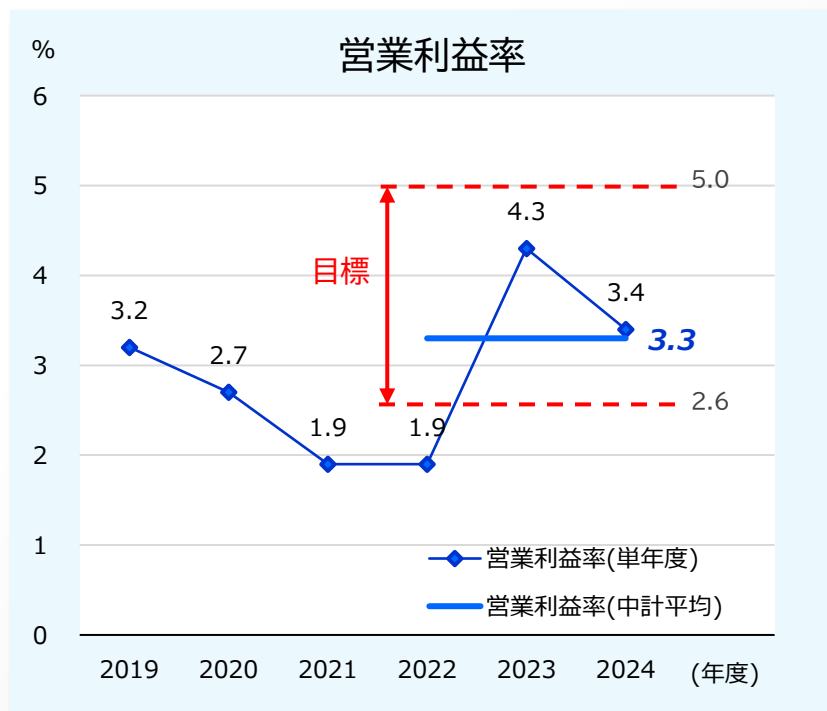
振り返り

前中期経営計画テーマ

稼ぐ力を強化し、フリーキャッシュフローの増加をはかる

経営指標は目標を達成し、「財務体質の健全化」に寄与

指 標	営業利益率	フリーキャッシュフロー
目標値	2.6～5.0%	60～150億円/年
実績値	3.3%(3ヶ年平均)	227億円(3ヶ年平均)



I. 前中期経営計画(2022-2024)の振り返り

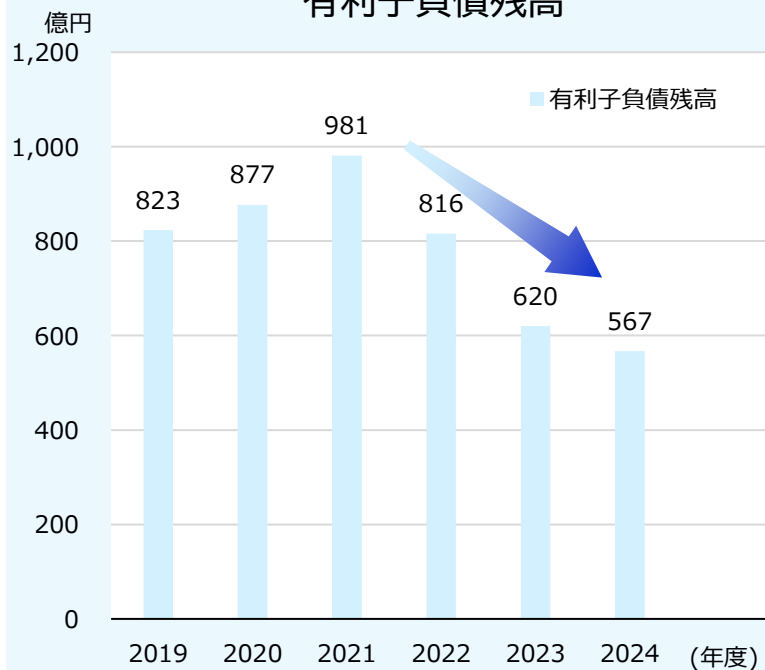
振り返り

前中期経営計画テーマ

稼ぐ力を強化し、フリーキャッシュフローの増加をはかる

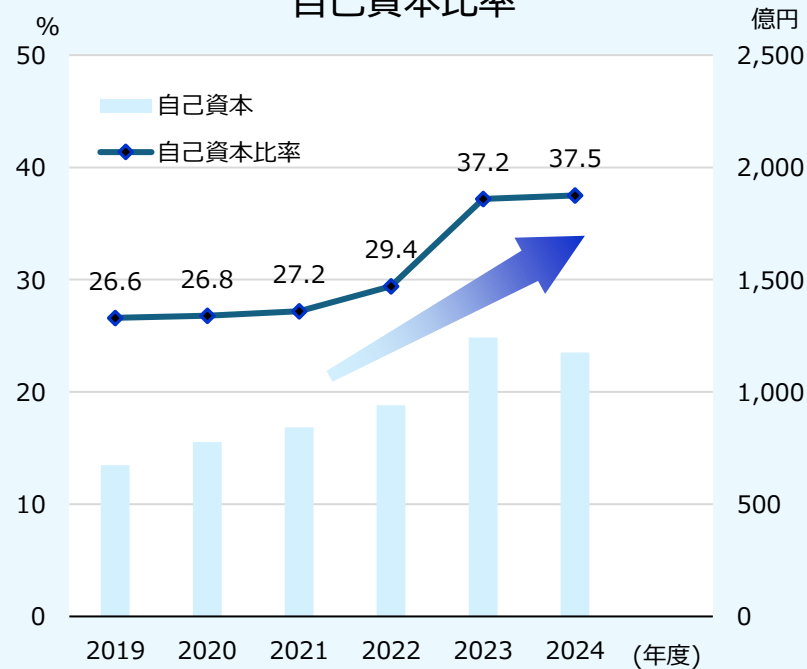
有利子負債の返済により財務体質は改善

有利子負債残高



有利子負債残高は2021年度末から
400億円以上削減

自己資本比率



自己資本比率は2021年度末から
10ポイント向上

I. 前中期経営計画(2022-2024)の振り返り

今後の課題

項目	課題
成長戦略	・ボデー系部品事業:売上拡大に向けた開発・能力向上 ・排気系部品事業 :電動化ニーズに合わせた新たなシステム開発 ・新規事業 :開発を加速し早期事業化 ・インド事業 :成長市場での拠点拡大と事業基盤強化
稼ぐ力	・営業利益率5%を目指した活動強化
人材	・全員活躍、社員の働きがい向上
カーボンニュートラル	・グローバル:2030年度(2019年度比)▲50%以上 ・日本:2030年カーボンニュートラル達成にチャレンジ
財務資本戦略	・PBR向上にむけた資本コストや株価を意識した経営

アジェンダ

I 前中期経営計画(2022-2024)の振り返り

II 新中期経営計画(2025-2027)

①事業環境の現状認識

②フタバの目指す姿

③事業戦略

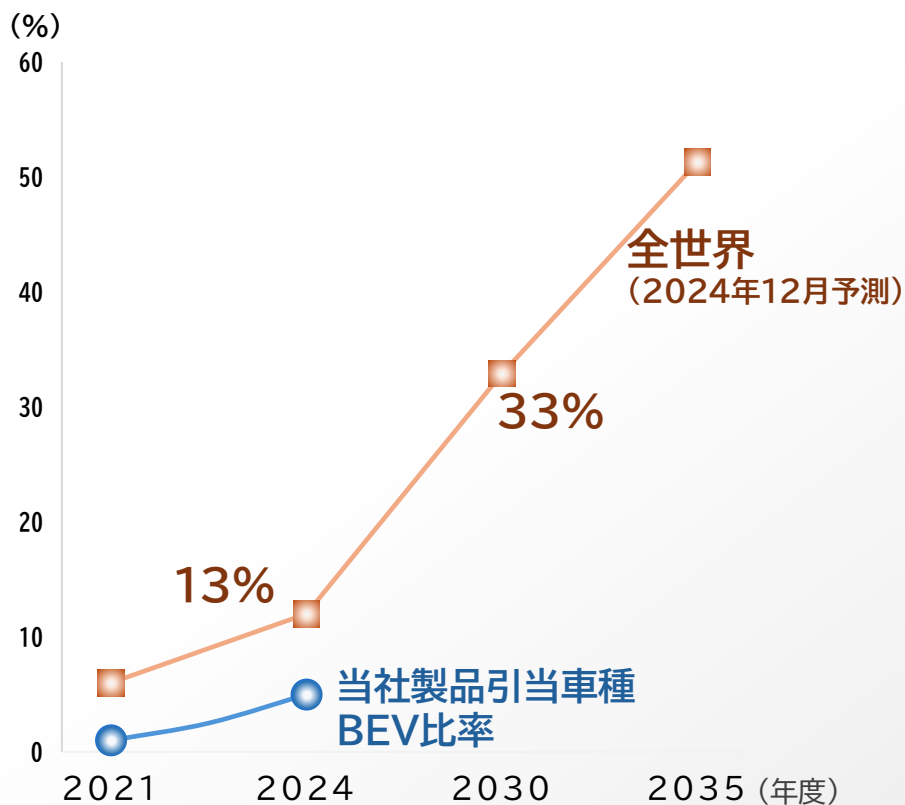
④財務資本戦略

Ⅱ. - ①事業環境の現状認識

世界新車販売台数BEV比率予測

※PHEVは除く

直近外部データに基づき売上影響を予測

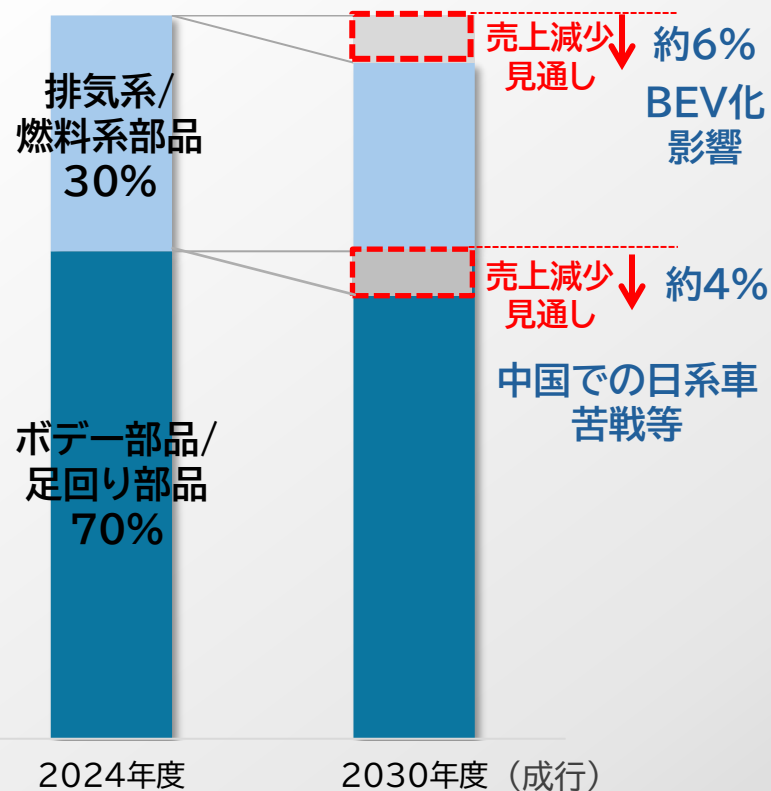


※出典: MarkLines作成(2024年12月時点の予測データ)より
フタバ産業が作成

フタバ連結の売上影響予測

※自動車関連部品・支給品除く

BEV普及に加え中国等の減少により
約10%の影響あり



Ⅱ. ー②フタバの目指す姿

中期経営計画2025－2027の位置づけ

前中期経営計画
2022-2024

財務体質の健全化

中期経営計画
2025-2027

成長投資

2030目指す姿

グローバルでの
安定的成長

取組み

- ・資本収益性の向上
- ・有利子負債の削減
- ・自己資本比率の向上

- ・既存事業の成長
- ・新規事業の事業化
- ・経営基盤の強化

- ・既存事業での
成長戦略の成果
- ・新たな収益事業の確立

Ⅱ. ③事業戦略

既存事業の成長(製品) / 新規事業の事業化

<売上拡大のための3つの戦略>

- ボデー系部品事業: 売上拡大に向けた開発・能力向上
- 排気系部品事業 : 電動化ニーズに合わせた新たなシステム開発
- 新規事業 : 開発を加速し早期事業化

既存事業の成長(地域)

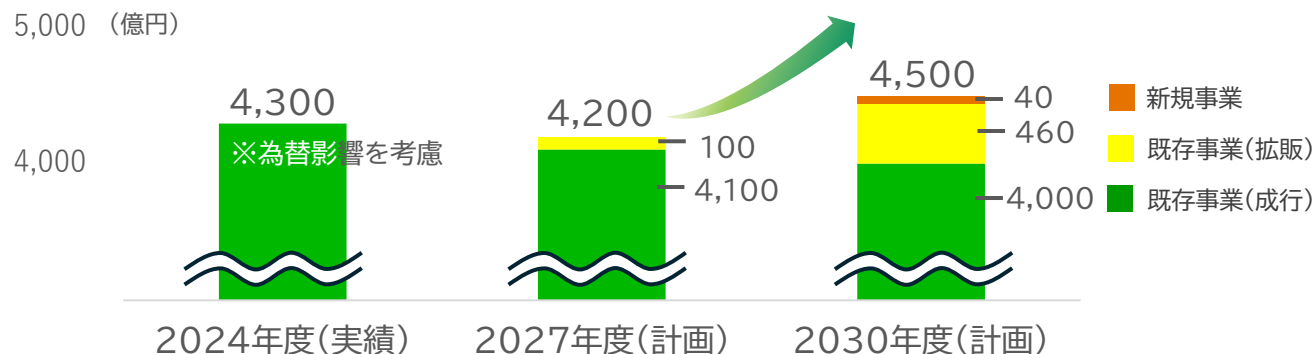
- インド事業: 成長市場での拠点拡大と事業基盤強化

経営基盤の強化

- 稼ぐ力の向上
- 人への投資
- カーボンニュートラル

売上計画

※支給品を除く



Ⅱ. ー③事業戦略 ボデー系部品事業

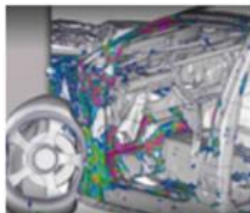
目指す姿

モノづくり力、構造提案力で、自動車メーカーのボデー設計、解析業務を担える集団

フタバの強み

- CAE技術向上による、応力解析や金型の最適形状の算出
- 冷間超ハイテン材に対応した金型構造、接合技術
- ゾーン開発
車両開発の企画/構想段階からお客様へ提案

正面衝突



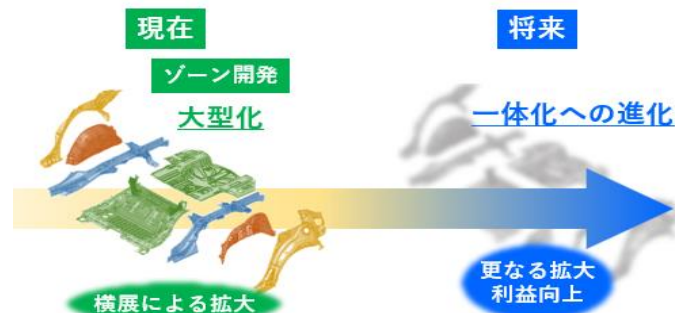
後面衝突



将来への取り組み

安心・安全な軽量・高強度ボデーの開発で衝突時の生存空間を確保

- 大型化の車種拡大
- 一体化による接合付加価値向上(利益)
部品点数削減(軽量化)



Ⅱ. ー③事業戦略 ボデー系部品事業

TOPIC 大型・一体化への取り組み

従来



小規模組立部品



台当り売上げ 接合付加価値 部品点数

現在



中規模組立部品



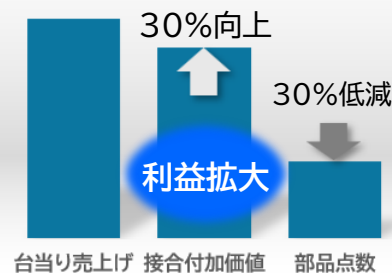
台当り売上げ 接合付加価値 部品点数

横展による拡大

将来

更なる拡大
利益向上

一体化構造提案



台当り売上げ 接合付加価値 部品点数

bZ4X



2022

クラウンシリーズ



2023

ランドクルーザー250



2024

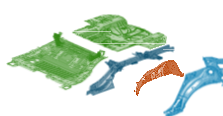
2025

■ :大型化部品
■ :その他の
受注部品

Ⅱ. ー③事業戦略 ボデー系部品事業

ロードマップ

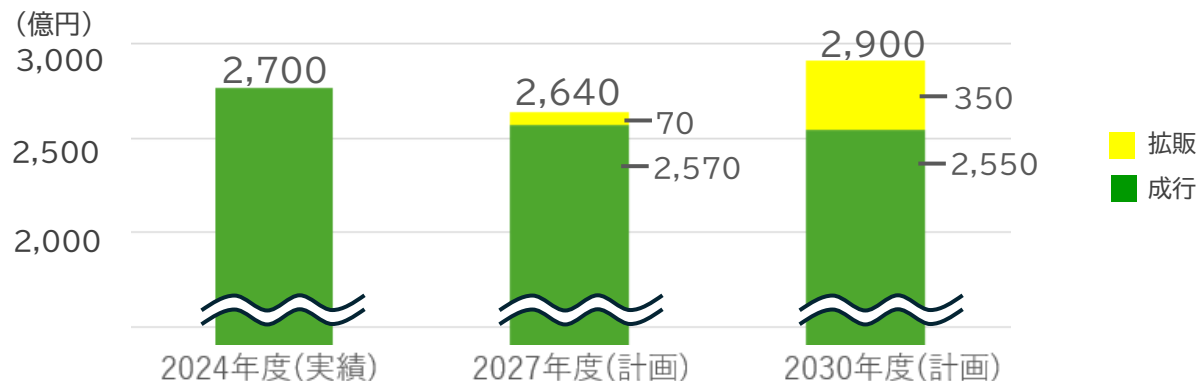
車両の企画構想から参入する事で自動車メーカーと共創し
高付加価値部品を提供

	企画 構想	構想開発 設計	評価 解析 	図面 発行	作り方 検討	生産		完成車
						小規模組立 	中規模組立 	
従来	自動車メーカー				フタバ	自動車メーカー		
現在	自動車メーカー	フタバ				自動車メーカー		
将来		フタバ				自動車メーカー		

「良い部品づくり」から「良いクルマづくり」へ

売上計画

※支給品を除く



Ⅱ. ー③事業戦略 排気系部品事業

目指す姿

電動化ニーズに合わせた新たな排気システムの開発
(フルモジュラーマフラーの開発/生産効率の向上)

フタバの強み

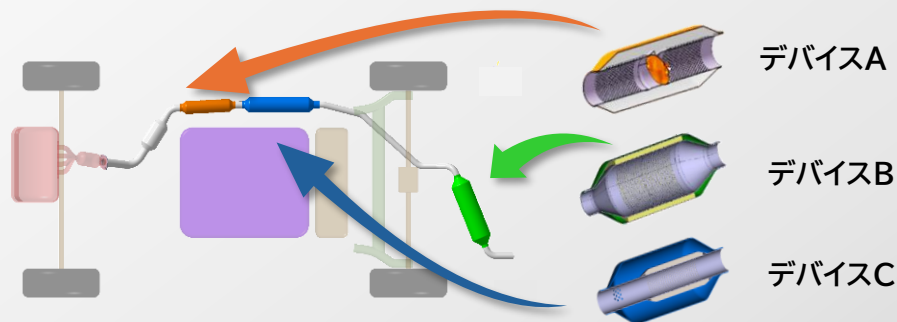
- 自動車用マフラー国内シェアNo1
- 設計/評価/設備/生産までを一貫して自社で開発/生産してきた実績
- 高い解析技術による、音/振動/強度/耐久性等の複合領域から最適解を導く開発力

将来への取り組み

- 環境・豊かな生活をお届けする浄化および消音性能を満たす新たな排気システムの開発
- 小型、標準化マフラーの組合せによる生産準備の効率化
- 個車開発からモジュール開発による開発/生産準備期間短縮

フルモジュラーマフラーとは？

従来のマフラーの内部構造に組み込まれていた消音特性を分割し、それぞれに特化したマフラー(デバイス)を組み合わせて使用。小型化されバッテリーが搭載されるPHEV,HEVなどに対応可能。汎用性があり開発/生産効率が向上する。

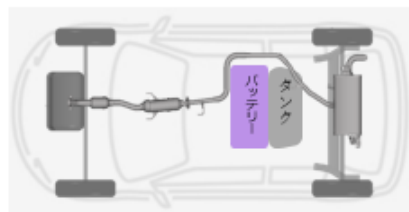


Ⅱ. ー③事業戦略 排気系部品事業

ロードマップ

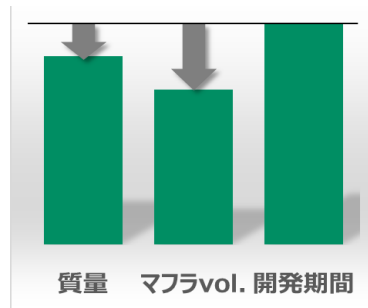
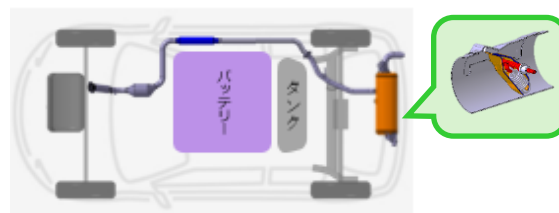
モジュラーデバイスからフルモジュラーマフラーへの進化

従来



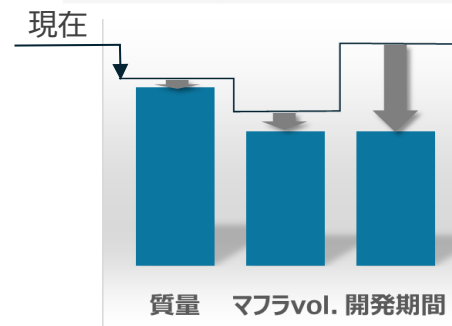
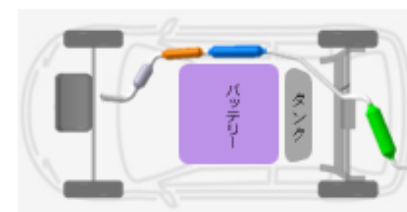
現在

モジュラーデバイス追加
PHEV、HEVへの拡販活動



将来

フルモジュラーマフラー
小型、標準化マフラーの組合せ



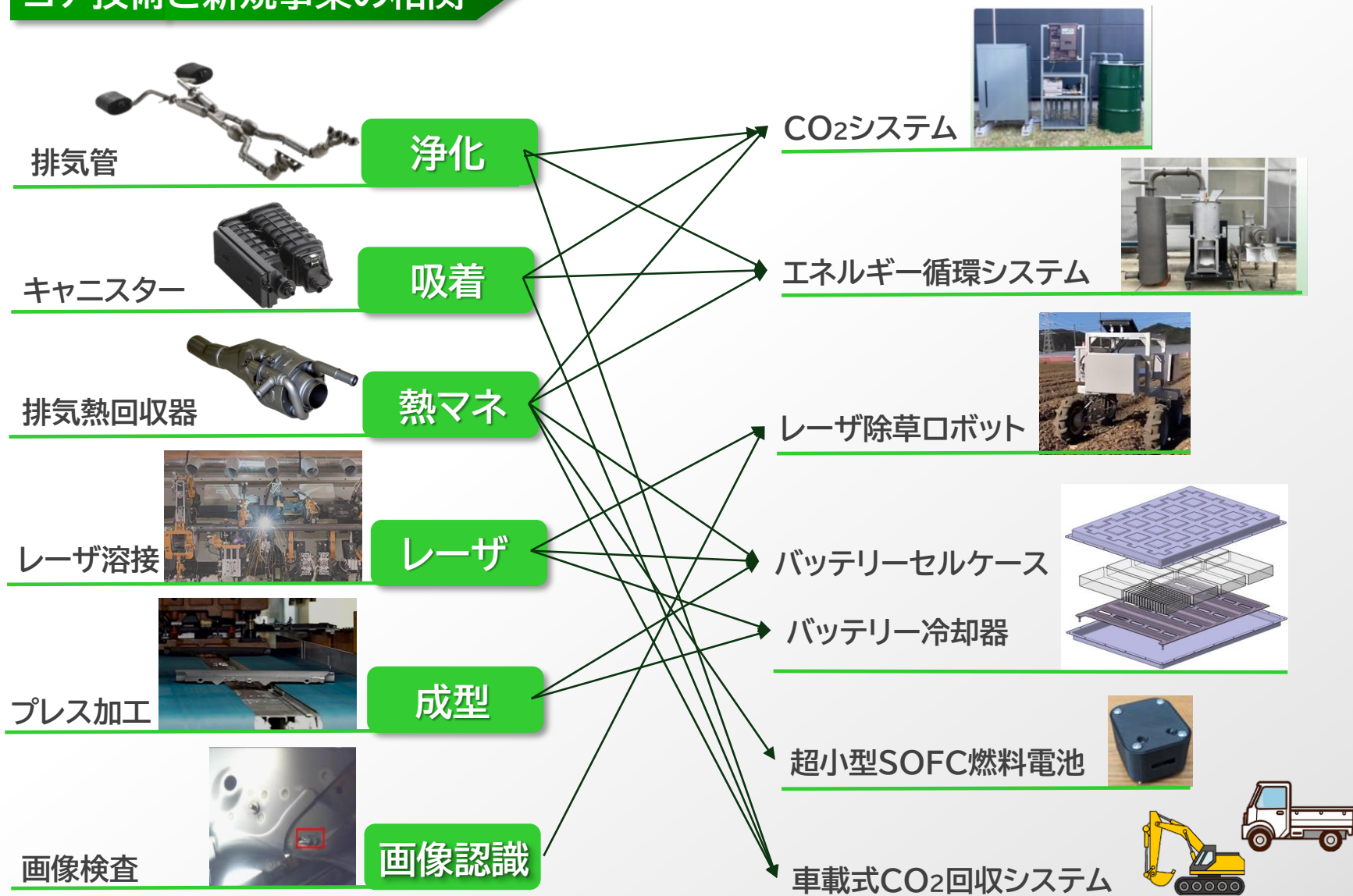
売上計画

※支給品を除く



Ⅱ. ③事業戦略 新規事業

コア技術と新規事業の相関



Ⅱ. ー③事業戦略 新規事業

農業事業(アグリーフ)

販売中

agleaf[®]CO₂システム

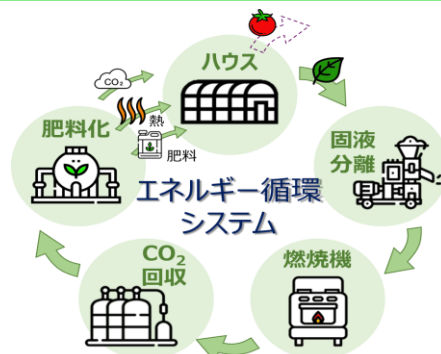


継続改良

- ・CO₂回収効率向上
→ 高濃度・長時間施用
暖房機のCO₂排出量削減
- ・暖房機燃料の多様化対応
→ バイオマス燃料など

エネルギー循環システム

開発中



開発加速

- ・残渣の乾燥技術、熱利用方法、
肥料化技術の確立

レーザ除草ロボット

開発中



開発加速

- ・AI画像認識精度の向上
- ・レーザ照射技術の確立

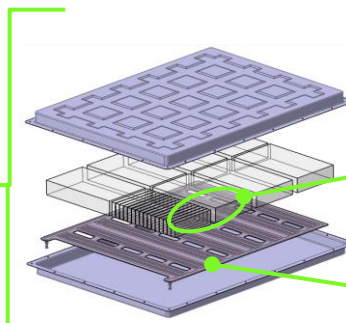
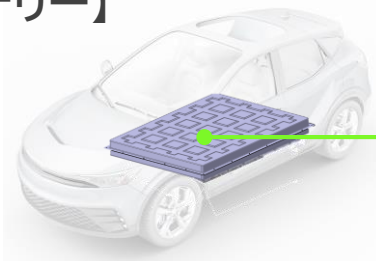
実際の農場で検証を実施
事業化加速

Ⅱ. ー③事業戦略 新規事業

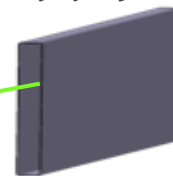
バッテリー製品

コア技術を活用した新製品開発

【バッテリー】



【バッテリーセルケース】



【バッテリー冷却プレート】

その他事業

環境・安心・豊かな生活を、新事業として社会へ訴求

【超小型SOFC燃料電池】

バイオ燃料を用いた長時間稼働可能な
超小型SOFC燃料電池



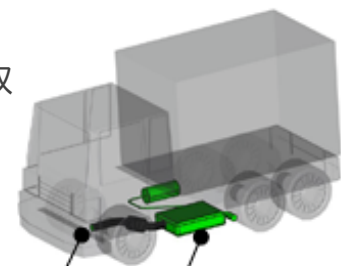
【車載式CO₂回収システム】

建機・トラックの排気ガスからのCO₂回収



+

CO₂回収
装置



既存排気管

CO₂回収システム

開発加速

- ・システム搭載スペースとCO₂回収量の最適化
- ・CO₂の利活用のパートナー探索

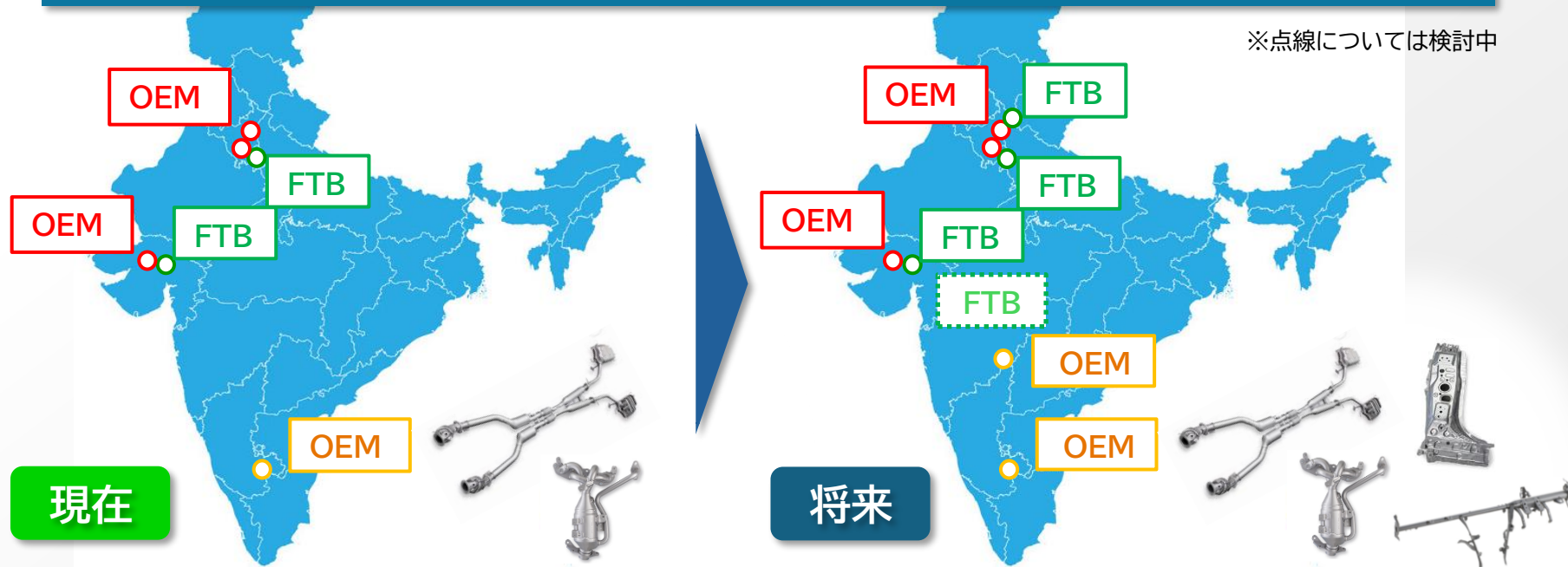
売上計画

全新規事業での売上目標:40億円/年(2030年度)

Ⅱ. ー③事業戦略 インド事業

目指す姿

自動車メーカー(OEM)の成長に対応し事業拡大・成長する



フタバの強み

- 日本のものづくりをインドで実現(品質、生産性、改善)
- 鉄・ステンレス加工メーカーとしての幅広い大物製品(ボデー、インパネリインフォースメント、排気管、エキゾーストマニホールド)
- 優秀なローカルスタッフ

Ⅱ. ー③事業戦略 インド事業

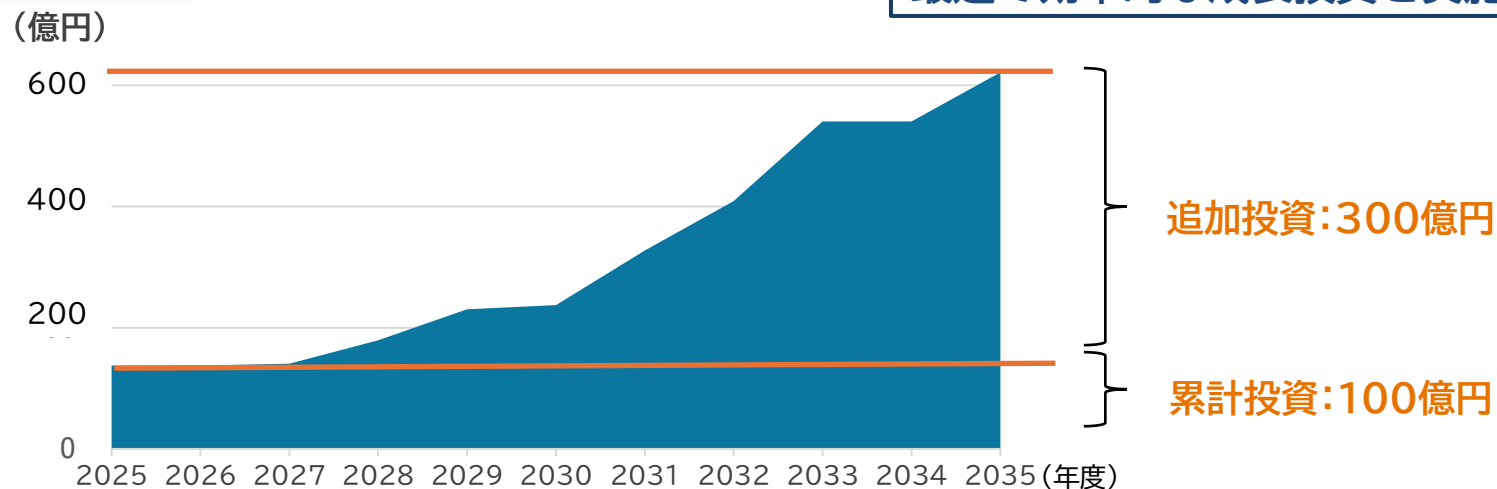
将来像に向けた取り組み

- 強みを生かした受注拡大
- 効率的な投資(ローカルサプライヤーとの協業、投資原単位削減)
- ローカル人材の採用から育成
- 設備事業の現地事業化

売上目標

※支給品を除く

最適で効率的な成長投資を実施



Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化

目指す姿

営業利益率、ROE向上に向けた強い経営基盤

事業戦略

強化する戦略

- ・リードタイム短縮／投資低減 TOPIC①
- ・品質向上：フレQA／QAネットワーク TOPIC②
- ・スマートファクトリー TOPIC③
(省人化・無人化、クリーンな工場)

変えない戦略＝生産能力の柔軟性

- ・市場動向に合わせた人・設備能力の可変
〈例：人・工場〉
 - UK、中国(広州)：24年 214名削減
 - 中国(長沙、天津)：23、24年 工場閉鎖
 - インド：27年 FMI第2工場新設
- 〈例：設備〉
 - 寄止め：2直化比率 24年38%→27年70%

稼ぐ力

収益向上(グローバル展開)

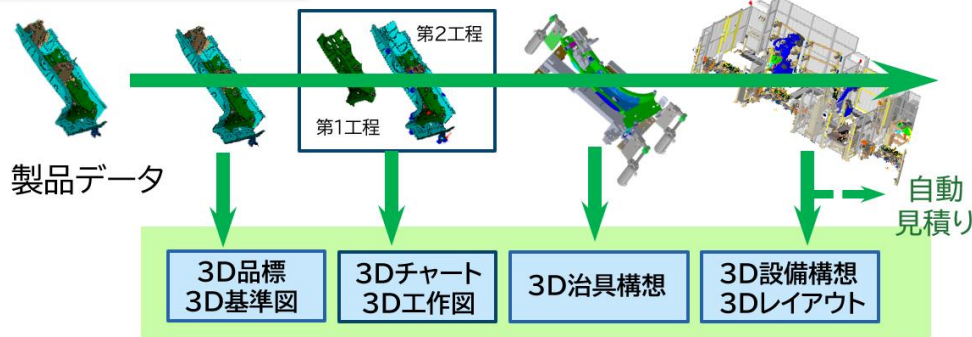
- 1)現場改善(デジタル技術の活用)
 - ・歩留り改善：原価の60%を占める、材料使用量の低減
 - ・不良低減
 - ・生産性向上：3%→4%
工場IT(AI・ソフトウェア)による、データ分析～対策
 - ・省人化・無人化
- 2)間接スリム化
 - ・業務の改廃、定型業務化(AI活用)
- 3)もっと作りやすい製品
 - ・工程短縮
 - ・不良低減

Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化

TOPIC① リードタイム短縮／投資低減

3Dスルー生産準備

検討精度向上と早期化



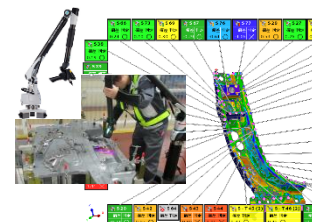
マスター3D基準策定(治具基準▲30%減)データライブラリー化

生産準備アンドン



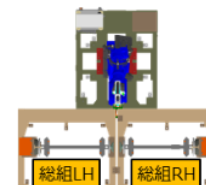
進捗予実と詳細状況をリアルタイムに表現

3D測定



検具のスリム化

カタログライン導入



2直化率向上

電気シミュレーション



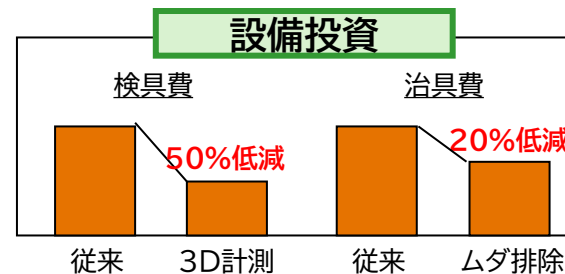
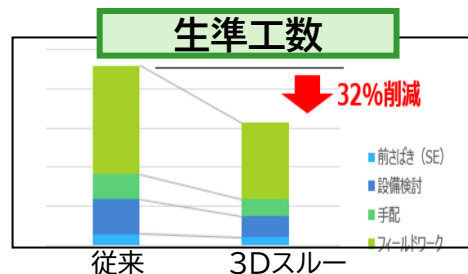
仮想空間でのシミュレーション

自動AR(拡張現実)



27年度目標

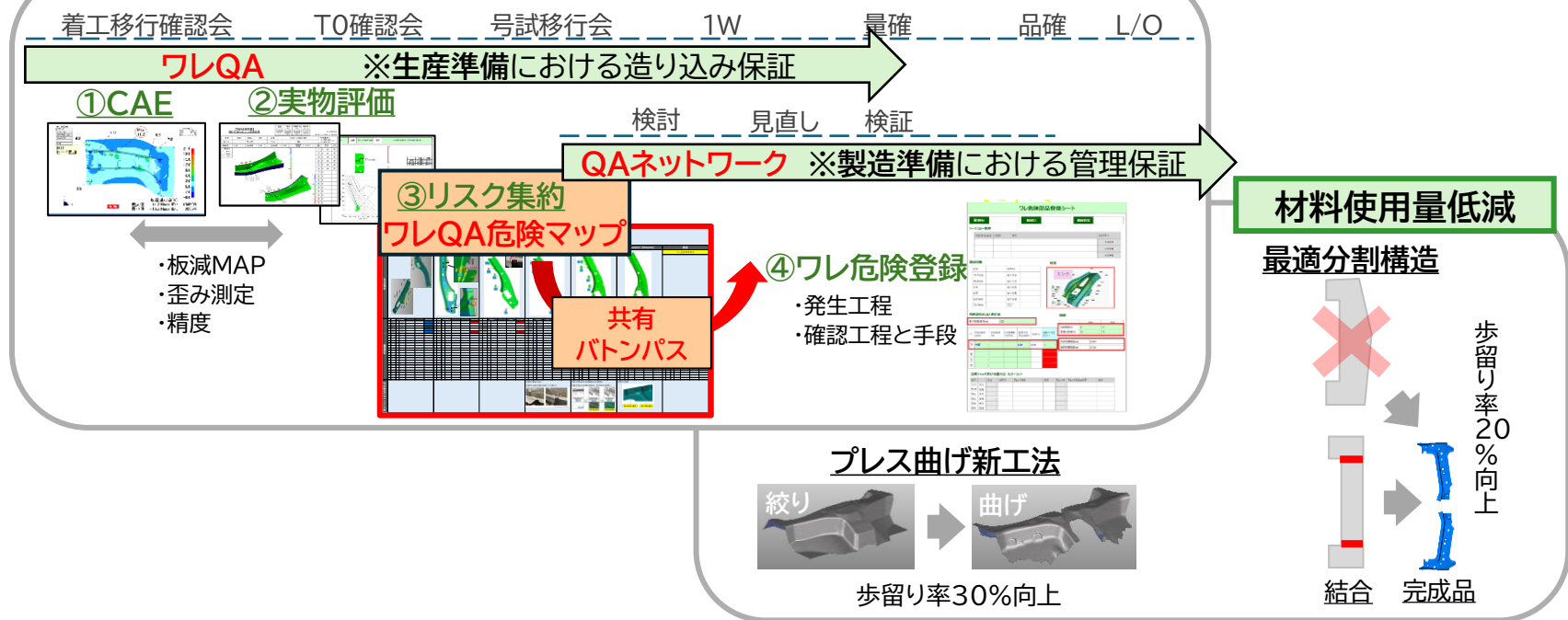
生準リードタイム1/2を目指して新デジタルプロセスを展開中



Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化

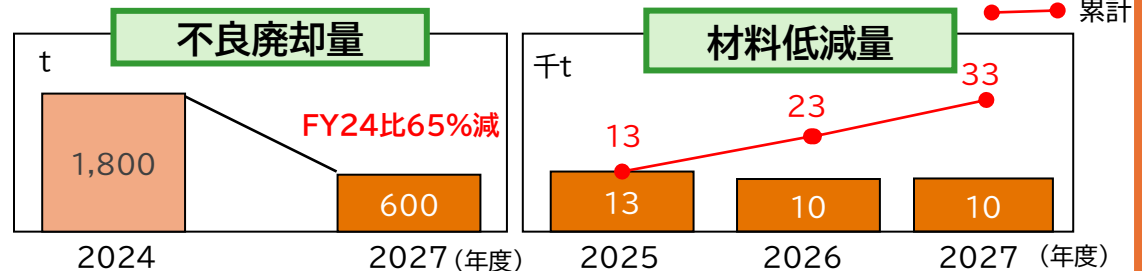
TOPIC② 品質向上・歩留り改善

<DX> プレスフレに対する未然防止(不良廃却低減)



27年度目標

不良廃却低減
歩留り最適化による材料
使用量低減



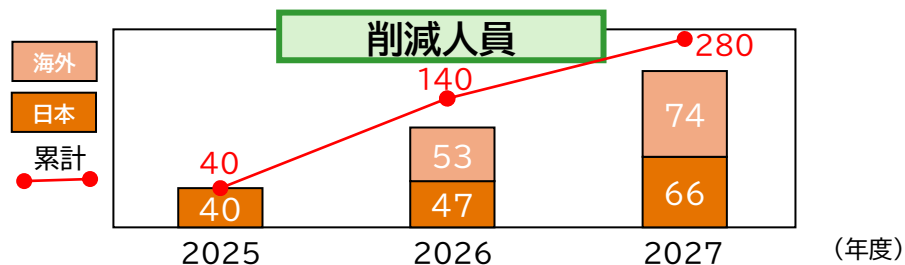
Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化

TOPIC③ スマートファクトリー



27年度目標

自動化技術を展開中

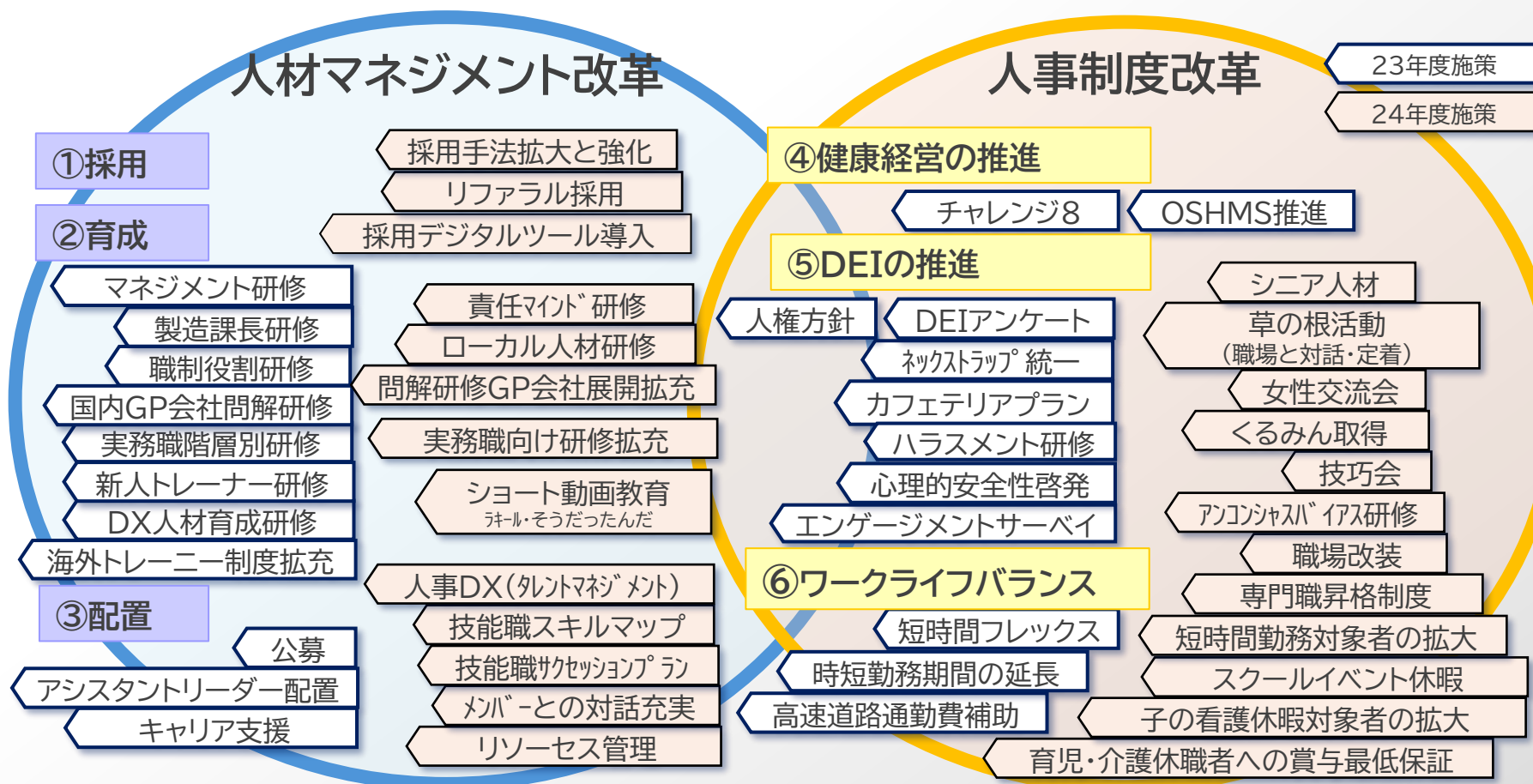


Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化(人への投資)

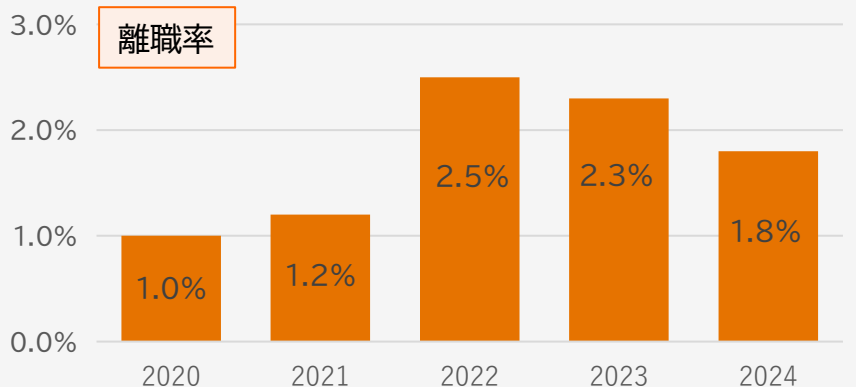
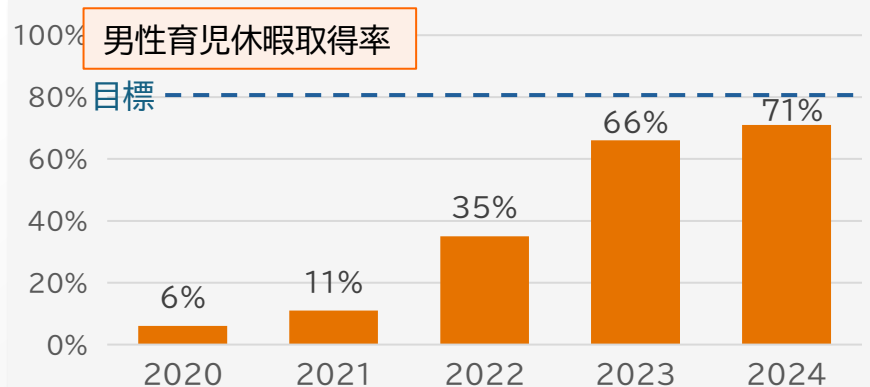
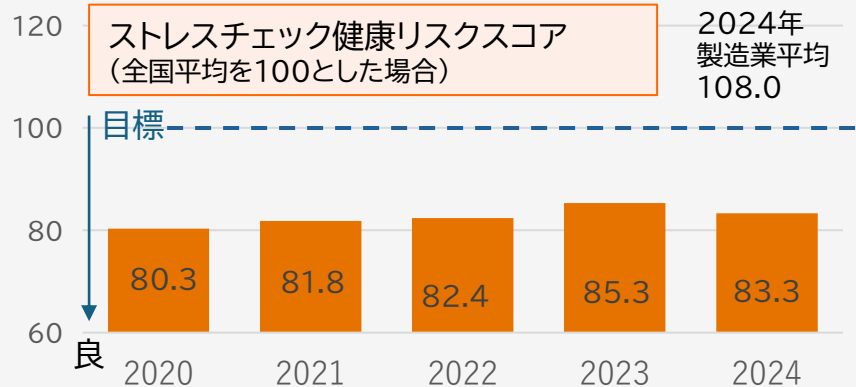
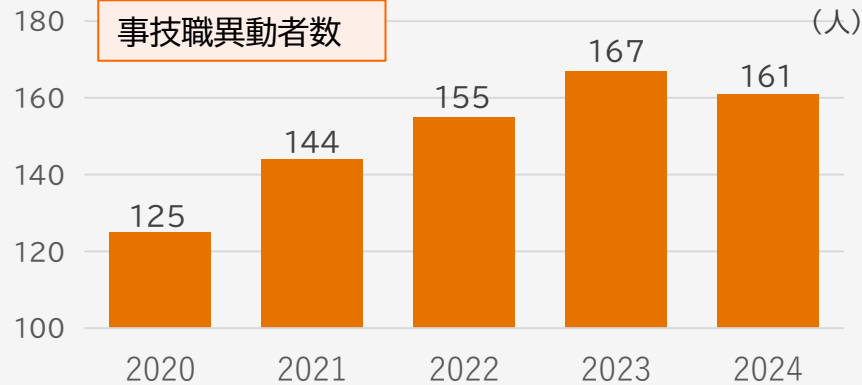
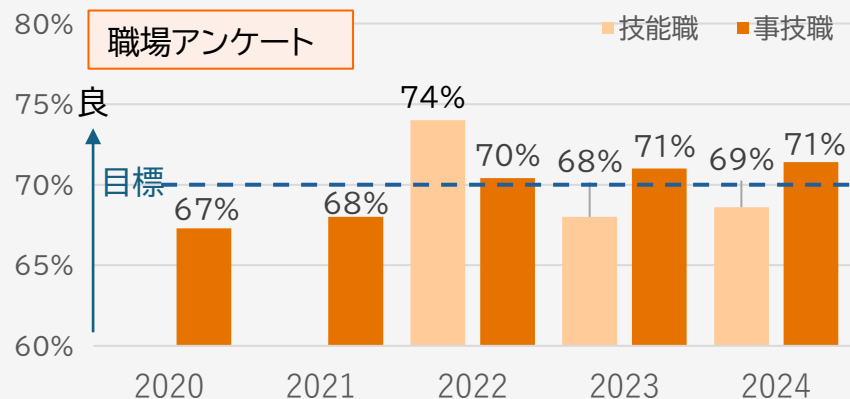
目指す姿

働きがいと個の成長を支援することで、
主体的に行動し、変革を推進できる基盤を創る

■ 働きがい向上のため、「即時実施」で昭和型人事を変えてきた



Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化(人への投資)



徐々に社員の働きがい向上

- 職場アンケートの数値は改善傾向
- ストレスチェックスコア、離職率も低位安定
- 働きがい向上の要素である部署間異動を活発化させており増加傾向
- 男性育児休暇取得比率は、取得促進を開始した2023年度以降大幅に上昇

Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化(人への投資)

今後の取り組み

重点施策を実施し、社員の働きがいの向上を図る
～仕事を通じた成長実感を、一人でも多くの社員に～

全員活躍

働きがいの向上

人材マネジメント改革

～多様な人材の採用・育成・配置～

- ✓ 事業戦略達成に必要な人材の採用強化
・リファラル採用、スカウト採用、メディア活用
- ✓ 成長のためのキャリア支援
・教育・評価ツールの整備と上司部下の対話充実
- ✓ 技能育成
・個人のスキル評価と育成計画作成実行
・動画配信などものづくり現場に寄り添った教育
・製造マネジメント研修(現地現物・人間力)
- ✓ 最適配置への取り組み
・個人の成長・能力拡大のための異動促進
・価値創造のためのリソースシフト

人事制度改革

～制度・風土の改革～

- ✓ ワークライフバランス実現のための
制度改変
・連続2直化拡大、男性育児休暇取得率向上施策
- ✓ DEI、風土改革
・社員同士のつながりを強化する社内交流会実施
・社員の自律性を促し行動変容に繋げる研修実施
・オフィス、工場のリノベーション継続
- ✓ 健康経営
・安心安全な職場風土実現と社員の健康課題克服
ホワイト500取得

Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化(カーボンニュートラル)

目指す姿

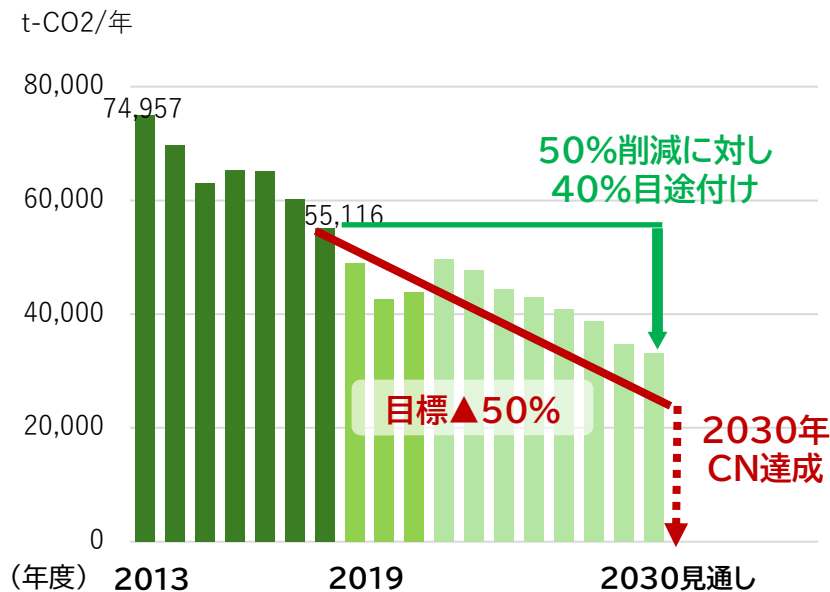
グローバル:2030年度(2019年度比)▲50%以上(▲4.6%/年※)

日本:2030年カーボンニュートラル達成にチャレンジ

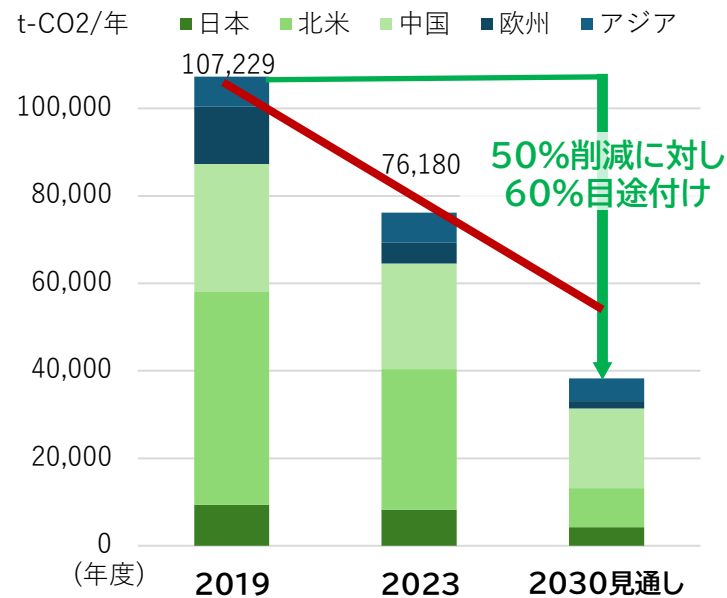
※2024年10月▲3%/年→▲4.6%/年へ加速

工場のCO₂排出量ミニマム化

<単体>



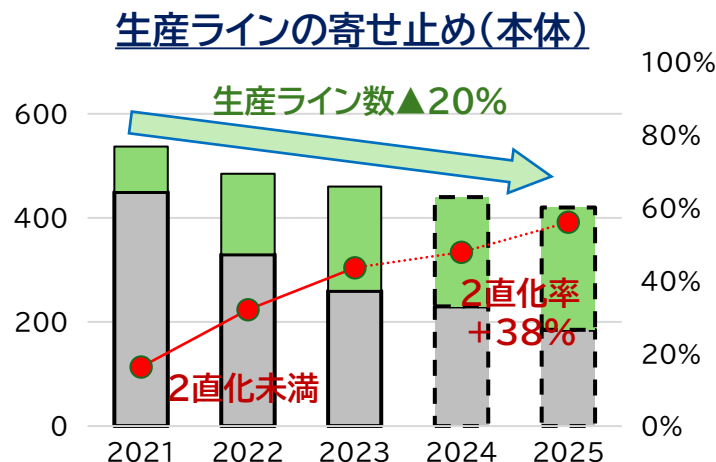
<グループ会社>



Ⅱ. ー③事業戦略 経営基盤の強化(カーボンニュートラル)

厳しい目標に向けて活動を強化

■ バストプラクティス活動



■ 軽量・高張力なボデー構造の追求

超ハイテン材加工技術を極める

- ①材料生産時:材料使用量の低減
 - ②部品生産時:冷間超ハイテン材プレスとホットスタンプの使い分け
 - ③車両走行時:部品の軽量化
- ※①&③はScope3/②はScope2



(単位: t-CO2/年)

グローバル	①	②	③	合計
2023年度	▲331	▲868	▲754	▲1,953
2025年度	▲1,829	▲4,561	▲4,160	▲10,550
2027年度	▲3,314	▲5,740	▲7,540	▲16,594

仕入先様を巻き込んだ活動展開



■ 生産部門会議

社長以下役員が、毎月、国内生産工場を巡回・知恵だし
仕入先様にも参加頂き、改善事例を現地現物で紹介・共有



■ 省エネ道場

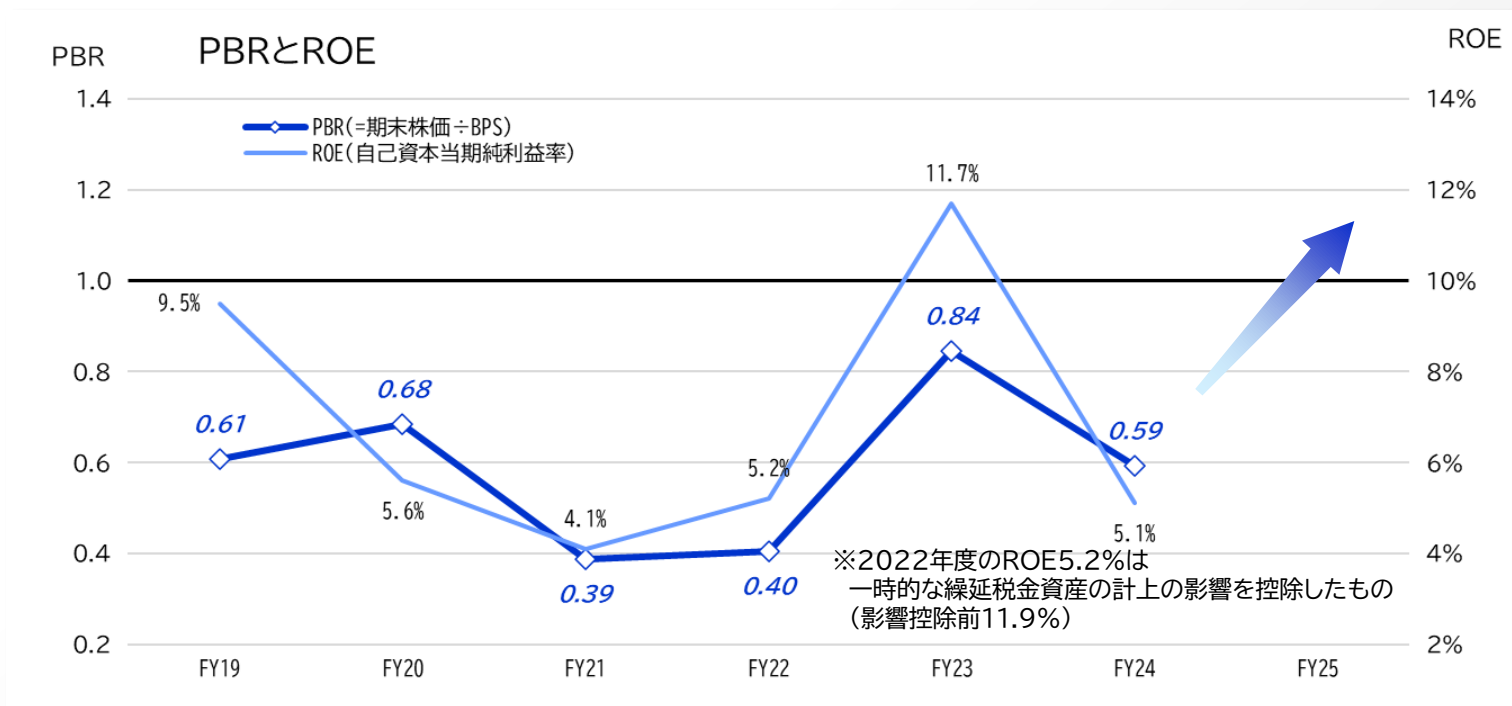
仕入先様も共に学ぶ道場で、ノウハウを紹介・共有
各工場にも道場を順次設置

Ⅱ. -④財務資本戦略

新中期経営計画テーマ

PBR1倍の早期達成に向けて、収益力の向上をはかる

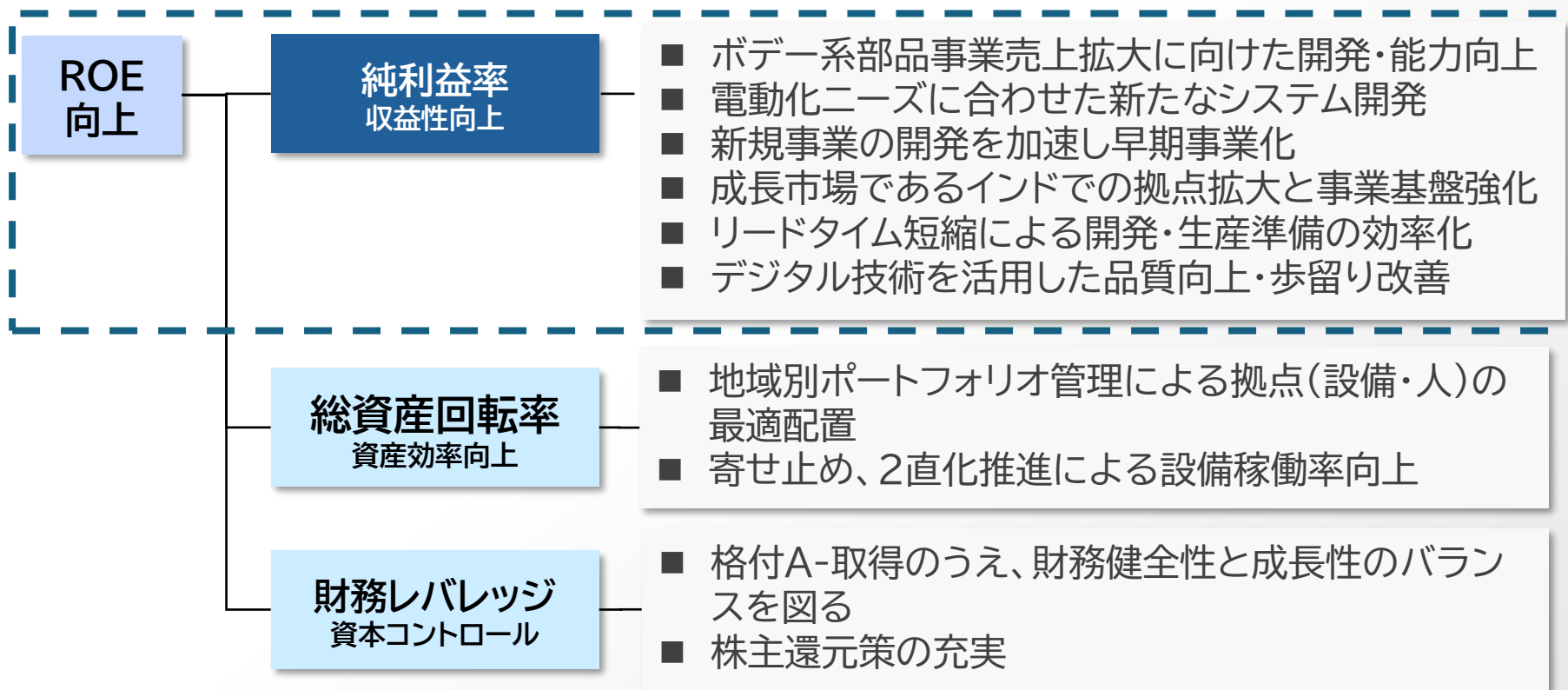
指 標	ROE	営業利益率
目標値	10%以上	5.0%(27年度)



過去データより当社のPBRとROEには相関があり、収益の持続的成長をはかることでROE10%を達成し、牽いてはPBR1倍以上を実現

Ⅱ. ④財務資本戦略

ROE向上にむけた取り組み



ROE
10%以上



純利益率
営業利益率5%



総資産回転率
維持向上



財務レバレッジ
財務健全性管理

Ⅱ. -④財務資本戦略

キャッシュアロケーション

■ 配分：「有利子負債返済」 ▶ 「将来成長投資」「株主還元」

前中期経営計画 2022-2024

【キャッシュイン】

営業CF
1,300億円

【キャッシュアウト】

株主還元
69億円

設備投資
659億円

有利子負債返済
414億円
(981→567)

その他 158億円
研究開発費
150億円

新中期経営計画 2025-2027

【キャッシュイン】

営業CF
1,180億円

【キャッシュアウト】

株主還元
110億円以上

通常設備投資
770億円

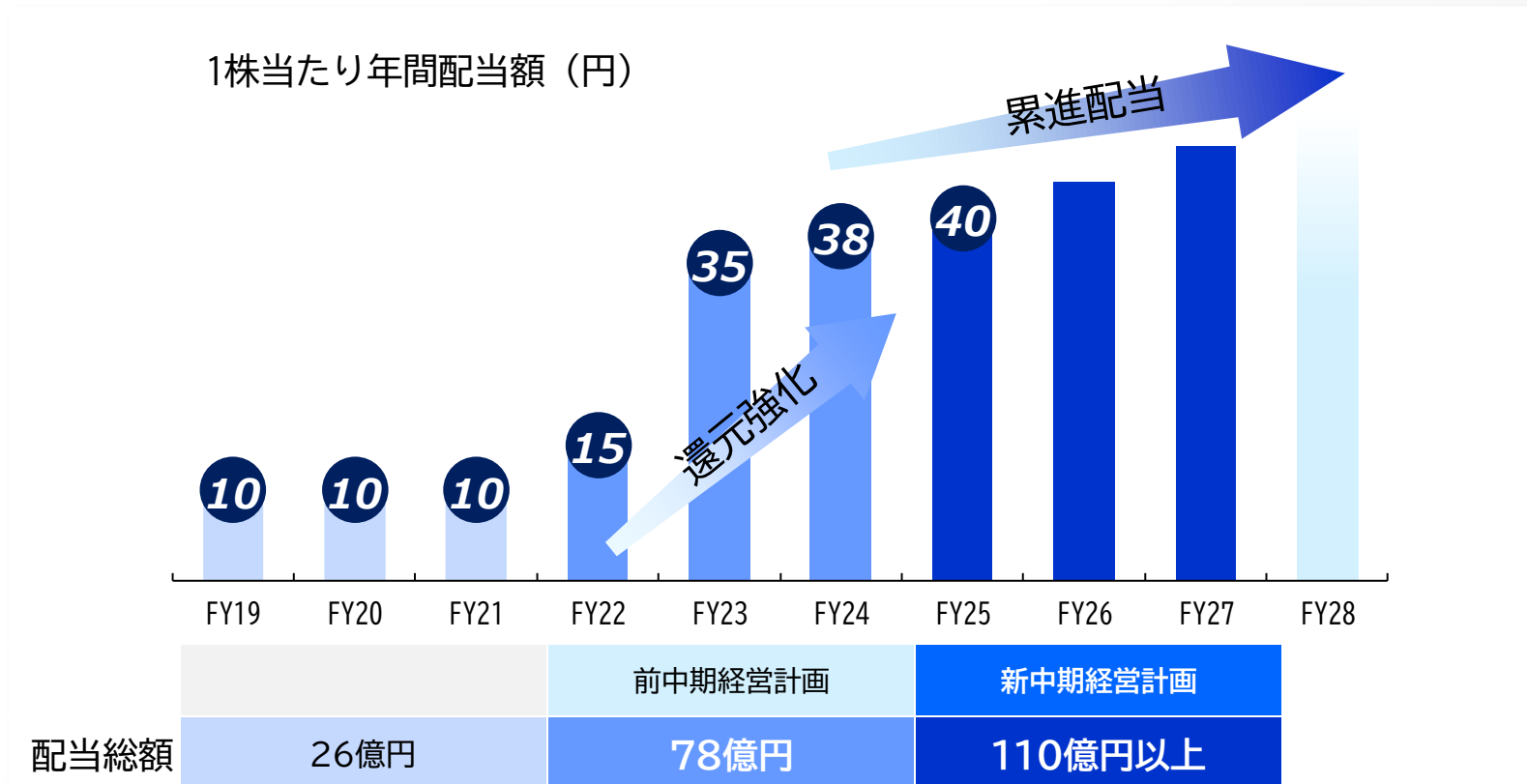
成長設備投資
300億円

研究開発費
220億円

Ⅱ. ④財務資本戦略

株主還元

株主資本配当率(DOE)3.5%を下限とした累進配当



これまで
安定的な配当の維持を基本に経営成績・配当性向
等を総合的に勘案
※配当性向30%程度を目安

これから
株主資本配当率(DOE)3.5%を下限とした累進
配当を導入することで安定的かつ成長に応じた
配当



フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>

【注意事項】

本資料に記載される当社（連結子会社を含む）の見通し等は、当社が現在入手している情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従って、これらの業績予想等のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い申し上げます。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

本資料に掲載のあらゆる情報はフタバ産業株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、一部の数値を億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。